

<b>Title</b>	日韓の研究交流：2つのセミナー(総合研究所 News： 第二回日韓神学者会議・第三回日韓教会交流史研究)
<b>Author(s)</b>	聖学院大学総合研究所
<b>Citation</b>	聖学院大学総合研究所 Newsletter, Vol.22-No.3, 2013.3 : 26-27
<b>URL</b>	<a href="http://serve.seigakuin-univ.ac.jp/reps/modules/xoonips/detail.php?item_id=4481">http://serve.seigakuin-univ.ac.jp/reps/modules/xoonips/detail.php?item_id=4481</a>
<b>Rights</b>	



聖学院学術情報発信システム：SERVE

SEigakuin Repository and academic archiVE

# 総合研究所 News

## 日韓の研究交流—2つのセミナー

2008年に締結された長老会神学大学校と聖学院大学の「交流協定」に基づいて、「日韓神学会議」と「日韓教会交流史研究」の2つのセミナーを、日本と韓国で交互に開催することが決まった。それぞれの学校から1名の講演者と1名のコメントを立てる、主題はその都度協議して決定する。事前に講演内容を収めた資料集を発行する、など簡単な取り決めがなされた。

### 第二回日韓神学会議



第一回は、2009年3月10日に「欧米神学とアジア神学」を主題にソウルの長老会神学大学校世界教会協力センターで開催された。第二回は、聖学院大学で開催することになっていたが、諸般の事情により、三年後の2012年11月2日に聖学院本部新館で開催された。

第二回の主題は相互の議論の後、韓国教会に大きな影響を与えているドイツの神学者、「ユルゲン・モルトマンの受容をめぐる」に決まった。なおモルトマン神学の韓国における影響については、会議に参加され、難しい議論の通訳にたずさわってくださった洛雲海教授の「韓国の神学——ユルゲン・モルトマンとの関わりから」（『聖学院大学総合研究所紀要』51号）が参考になる。

会議には、2012年10月に総長に就任されたキム・

ミョンヨン教授を団長に、長老会神学大学校からシン・オクス、キム・ウネ、ユ・ヘリョン、ナグ・ウンへの5名の教授が参加された。

金明容教授は、ユルゲン・モルトマン教授のもとで博士の学位を取得された方で、数多くのモルトマンに関する論文を発表している。その一部は高萬松助教により翻訳され、『聖学院大学総合研究所紀要』52号などに掲載されている。

会議は、あらかじめ用意された論文に基づく講演とコメント、そして議論で構成された。シン教授が「韓国におけるモルトマン受容とその理解」について講演され、藤原淳賀総合研究所教授がコメントをされた。また高橋義文大学院教授が「ラインホルド・ニーバーとユルゲン・モルトマン——モルトマンのニーバー批判」について講演され、キム・ウネ教授がコメントを出された。

日本ではモルトマンの翻訳は多数なされているが、圧倒的な影響を受けたとまではいえないであろう。韓国におけるモルトマンの強い影響に対して日本ではなぜそれほど影響をもっていないのか？ 日韓両国の神学をめぐる白熱した議論がなされた。

### 第三回 日韓教会交流史研究

第一回が2011年2月1日に、聖学院本部新館で開催され、第二回は2011年11月25日にソウル・長老会神学大学校で開催され、今回は3年計画の



第三年目のまとめとして、2012年11月3日に聖学院本部新館で開催された。主題は「1945年以降のデモクラシー憲法と両国教会・世界情勢」であった。

長老会神学大学校を代表して、ユ・ヘヨン教授(研究支援処長、実践神学、スピリチュアリティ研究)が開会挨拶をされた。

午前にイ・チマン教授が「1980年代における南北統一運動のための日本教会の役目と寄与」について講演され、東野尚志特命教授がコメントをされた。

午後は、「1945年以降の北東アジアと教会—日本国憲法との関わりから」と題して、松本周助教が講演して、アン・ギョソン教授がコメントをされた。議論は、日韓の両教会が互いに理解を深めていく必要があることを確認するものとなった。会議全体の通訳は、用賀教会牧師のペク・ジョンファン氏が担当してくださった。特筆すべきことに、高萬松助教が「日韓会談反対運動と日韓教会交流—1960年代を中心として」を発表されたことである。政治的には多くの問題を孕んだ日韓条約の締結をめぐって丹念に資料を発掘し、戦後の日韓教会交流がいかなる困難を乗り越えてはじめられたか、研究報告された。